

# 平成28年度 赤穂市学校(園)評価 外部評価報告書

学校園名 赤穂市立御崎小学校

## 1 本年度の学校(園)経営方針

「自ら考え行動できる児童の育成」を学校教育目標とし、知・徳・体のバランスのとれた児童の育成をめざす。そのため、めざす学校・教師・家庭像を明確にして学校経営を推進する。		
<p>&lt;めざす学校像&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇いじめや暴力のない学校</li> <li>◇教職員が組織として機能し、迅速に対応する学校</li> <li>◇凡事徹底ができる学校</li> <li>◇家庭や地域と共に児童を「共育」する学校</li> </ul>	<p>&lt;めざす教師像&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇児童一人一人の良いところや成長を認め、ほめて伸ばす教師</li> <li>◇児童一人一人に居場所のある学級経営を行う教師</li> <li>◇授業改善に努力し、指導力の向上をめざす教師</li> </ul>	<p>&lt;めざす保護者像&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇わが子とじっくり語り合える保護者</li> <li>◇わが子にめあてをもたせ、実現に向けて励ます保護者</li> <li>◇家や地域でわが子の手本となるよう努める保護者</li> </ul>

## 総合的な学校園関係者評価

・学校自己評価については、その内容および改善方法ともに適切である。にこにこ活動や児童会活動などを中心に、児童が学年を超えて仲がよくまとまりのある集団となるような工夫があり、御崎小学校としての一体感が随所に感じられる。今後も保・幼・小・中の連携がしやすい地理的環境を生かしつつ、地域や家庭と協力して教育活動の充実を図ってほしい。

・防災教育については、運動会での引き渡し訓練や保・幼・小の連携で行った地震・津波からの避難訓練などが計画立てで行われている。これからも計画的・継続的に避難訓練を行うとともに、今後は、校舎より高い津波が来ることを予想した避難訓練などを、計画し行うことも必要だと感じる。

・保護者へのおたよりだけでなく、学校だよりの地域回覧等によって学校の取組や児童の様子が地域住民にもよく分かる。児童が落ち着いた環境で安全に学校生活が送れており、保護者、地域住民も安心している。児童を取りまく社会環境が不安定なので、特にネット問題の研修会等には今後も保護者や地域住民も参加できるようにしてほしい。

・オープンスクールなどで進んで児童が挨拶をしたり、親切に教室の案内などをしてくれたりして、大変気持ちよく授業参観ができた。登校時など以前に比べると自ら挨拶をする児童が減ってきたように感じる。これからもPTAや地域と協力して、「あさがお運動」に取り組んで欲しい。

## 2 本年度の学校(園)重点目標

<p>重点I 確かな学力の確立</p> <p>重点IV 思いやりの心の育成</p> <p>重点VII キャリア教育の支援</p>	<p>重点II 学ぶ意欲と態度の育成</p> <p>重点V 健康・体力づくりの推進</p> <p>重点VIII 特別支援教育の充実</p>	<p>重点III 道徳教育の充実</p> <p>重点VI 人権教育の充実</p> <p>重点IX 学校業務改善の推進</p>
--	---	--

## 3 自己評価結果 (A～D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

領域	観点(重点目標)	評価項目(学校園・教師の取組)		評価資料	達成状況	改善の方策	◎:適切である ○:ほぼ適切である △:あまり適切でない ×:適切でない		
		評価指標	目標値(期待される姿)				自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と来年度具体的改善方法
学	開かれた学校づくり(家庭・地域・学校間との連携)	項目	学校教育の情報発信・啓発	アンケート	A	・地域の人材活用、地域行事への参加、オープンスクールや学校行事の計画的な実施、及び教育活動の継続的な情報発信により、学校教育への家庭や地域の関心が高まり成果が得られている。さらに創意工夫ある実施内容を加えていきたい。 ・保幼小ならびに小中連携事業を継続し、異校種間の児童・生徒理解を深める。	◎	◎	・「学校だよりに」により学校の取組がよく分かる。また、学校行事を通して学校の様子を見る機会もあり、学校・家庭・地域の連携を深める絆になっている。 ・「地域の大先輩に学ぶ」「昔遊びをしよう」など光和会(老人会)を中心に地域の高齢者と児童の交流学習を地域とのつながりという観点からの継続して欲しい。 ・昨年度から取り組んだ高齢者への友愛訪問も良かったので今後も続けてほしい。
		指標	学校や学級の教育活動が、行事や学校(学年)通信、学校HPにより、家庭・地域に理解されるように努めた。	アンケート					
		項目	住民参加の地域の特色を生かした教育活動の推進	授業交流					
校	生徒指導	項目	児童生徒の内面理解に基づく生徒指導の充実	児童の様子	A	・「生徒指導委員会」を中心に児童の実態に基づいた毎月の指導事項を協議し、共通理解のもとで生徒指導に取り組んできた。今後も、問題の未然防止に向けた自立的な態度の育成に一層取り組んでいく。いじめのない、一人一人に居場所のある学級経営を今後も継続する。	◎	◎	・いじめ問題や不登校問題に対して家庭環境にも配慮して対応されている。保護者が不安を抱かぬように児童へのきめ細かな観察と声かけ、家庭との連携を密にして次年度も進めてほしい。 ・「あさがお運動」の取組を継続し、自然に挨拶できるようにPTA・地域と協力して挨拶運動を深めてほしい。
		指標	好ましい人間関係をつくる組織的な協力体制の充実	児童の様子					
		項目	児童の悩み、いじめや不登校問題に対し、早期発見・早期対応に努めてきた。	アンケート					
運	健康教育	項目	健康意識向上と自己健康管理能力の育成	児童の様子	A	・今後とも不登校傾向、特別な支援を要する児童の心の居場所となる学校づくりを継続する。また、学校と家庭で成果と課題を共有し児童に関わるよう連携を深める。 ・「早寝早起き朝ごはん」運動の中ではメディアやネット使用のルール作りやモラル向上を講演会や情報教育で一層推進する。	◎	◎	・「体力アップスクール表彰」を受けるなど家庭や地域、保・幼・中などと連携し、児童の健康の保持増進や体力の向上によく取り組んでいる。 ・学校では「ノーメディアデー」の推進の呼びかけやインターネット、SNSなどの使用のルールやモラル向上の講演会をするとともに家庭への啓発を一層進めてほしい。
		指標	業間・昼休みの時間の外遊びや継続的な体力づくり運動、手洗いの励行等を進め、児童の健康管理意識の向上に努めた。	保健記録					
		項目	保健室の管理・運営	児童の様子					
営	安全教育 防災教育	項目	防災教育・安全教育の実践	防災授業研究	A	・防災訓練の実施方法を見直し、児童の実態により即した方法で児童自身による身の守り方のスキルや安全意識を高めていく。 ・教職員の放水訓練、救助訓練、危機対応の演習等を実施し、実地に生かせる知識とスキルの向上を図る。	◎	◎	・様々な訓練を保・幼・小合同で実施することは続けて欲しい。特に、校舎より高い津波を想定した避難訓練をするなど、今後も防災体制の整備を地域との連携を密にして深め、より防災意識を高めていくことが必要である。 ・自転車の乗り方指導などを学校で指導するだけでなく、PTAと協力して、保護者へも啓発をする必要がある。
		指標	授業や防災訓練などで防災・減災の意義を伝え、児童の防災スキルや防災意識を高めている。	校内研修会					
		項目	危機管理体制の整備と実践的な研修・訓練	児童の様子					
組	組織運営	項目	学校の教育目標達成のための学校運営・責任体制の整備	教職員自己評価	A	・受容的な職員室の雰囲気、協働性や同僚性のある職員組織を今後も継続し、年齢や性別に関わりなく互いに学び合うOJTを充実させて個々の力量を高める。 ・学級経営報告会を中心に、各担当が学級・専科目標の達成度、成果と課題を学期ごとに確認し、次学期に取り組む。 ・定時退勤日の終会や学校だよりの啓発、勤務の割振変更の適切な実施等により業務改善を一層図る。	◎	◎	・来校するたびに児童だけでなく先生方の表情の明るさや雰囲気のよさを感じる。御崎小学校がチームワークを大切にし教職員一丸となって児童の教育にあたっておられることが伝わってき、安心できる。この雰囲気を大切にしてほしい。 ・教職員の勤務時間や水曜日が定時退勤日であることを学校だよりに評議員会で知った。保護者や地域住民に周知することは学校への理解を深める意味でもよいことだ。
		指標	教職員の共通理解に基づく学級づくり・授業づくり	教職員自己評価					
		項目	教職員がよく連絡を取り合い、互いの学級経営の状況を把握し学年・学年部等でそれぞれの課題の共通理解を図りながら学級経営や授業を進めた。	児童の様子					
教	教職員の 資質と実践 的指導力 の向上	項目	学級経営の基本理念	教職員自己評価	A	・人権教育を基盤とした学級づくり・授業づくりを中心に、一人一回以上の研究授業を行った。アクティブラーニングをテーマに一人一人の自己研鑽が深まった。	◎	◎	・オープンスクールでの授業は、先生方は児童に分かりやすく工夫して行っている。これからも教職員一人一人がめざす教師像を持ち、自己研鑽を続けて欲しい。
		指標	児童が学校生活を楽しいと感じられるような支持的風土や学習環境づくりに努めた。	児童の様子					
		項目	勤務時間の適正化	勤務記録簿					

施設整備	項目 指標	安全点検の徹底 安全点検が確実に実施され、宮修繕ができています。	点検記録 教職員自己評価	A	・毎月の安全点検で、校舎内外の安全点検には、複数の教職員で目配りをしてきた。補修箇所についても迅速に対処してきた。
	項目 指標	学習・生活の場として適正な施設設備の管理整備 学習・生活環境の整備が計画的にできています。	教職員自己評価		
基礎・基本の確実な定着と創造性の伸長	項目 指標	分かる授業づくり 児童が「分かった」「できた」と思える楽しく達成感のもてる授業を行うよう、創意工夫に努めた。	授業研究 学習記録 児童の様子	B	・「自分も友達も大切にし、互いに認め合う児童の育成」をテーマにし、人権教育を基盤とした学級づくり・授業づくりに取り組んできた。このような日々の取組と計画的な研究授業や研修を通して「分かる授業づくり」やアクティブラーニングに対するOJTが進み、教職員の意欲と実践的指導力、チーム力が高まっている。 ・兵庫型教科担任制と少人数授業、同室複数指導等により、個に応じたきめ細かな指導を充実し到達度に応じた補充学習を行う。 ・赤穂ドリルや授業の中で振り返り小テストをするなど基礎基本的な学力が定着するよう工夫していく。
	項目 指標	個に応じた指導の工夫と基礎基本の定着 新学習システムやきめ細かな指導、ぐんぐんタイムでの習熟学習等、個に応じた指導を工夫した。	学習記録 ノート、評価資料 教職員自己評価		
	項目 指標	朝の読書活動 ブックママと連携する等、読書意欲を喚起し、年間50冊以上の本を読むことができるよう取り組んでいる。	読書記録 ブックママ記録 児童の様子		
	項目 指標	体験的・問題解決的な学習の展開 体験を通して主体的に学ぶ学習展開や学習形態を設定し、学ぶ意欲や関心を高めた。	授業記録 授業公開		
	項目 指標	評価方法の創意工夫 評価基準や評価方法を適切に定め、達成状況を把握し、評価の観点に沿った評価を進めている。	ノート 評価資料 児童の様子		
道徳教育	項目 指標	全教育活動の中で道徳性の育成 全領域において道徳性を培うように計画している。	道徳教育年間指導計画の 評価・アンケート	A	・道徳の教科化を視野に入れ、年間35時間の完全実施をめざして努力している。兵庫県版道徳副読本は家庭での親子読書への発展が課題である。 ・講師招聘研究授業や教職員が相互に道徳の授業を見あう機会を増やし、授業スキルのさらなる向上を図っていく。
	項目 指標	互いを認め合う学級作り 学級の中で、人間の生き方の自覚や道徳実践力を育成している。	児童の様子 アンケート		
	項目 指標	道徳カリキュラムの整備と道徳の授業の充実 カリキュラムを整備し心に響く授業を心がけ、違う価値観の意義・大切さを知らせている。	カリキュラム 教職員自己評価		
総合的な学習の時間	項目 指標	ふるさと意識の醸成 地域や児童の実態に応じた特色ある展開がなされている。	カリキュラム アンケート	B	・昨年度、年間指導計画と評価基準表を見直し、今年度は評価活動の充実をめざしポートフォリオの活用を図ってきた。体験活動は充実している。「みさきっ子ノート」を活用した学習の記録化をより進めたい。
	項目 指標	各教科との関連を図った指導の展開 各教科で身につけた知識や技能を相互に関連づけ、学習や生活に生かして総合的に働くようにしている。	教職員自己評価 授業研究		
特別活動	項目 指標	自発的・自治的な態度、支持的風土の涵養 児童は、学級活動・行事・クラブ活動・委員会活動等に積極的に参加し、仲間を思いやった行動ができています。	児童の様子 教職員自己評価 アンケート	A	・特別活動を人権教育の基盤としての人間関係づくりととらえ、たてわり班活動や児童会活動、学校行事を通じて児童の主体性を育む取組を従来から継続してきている。児童の人間関係は向上しつつあるが、自立的態度や判断力に課題をもつ児童も見られ、いじめの未然防止、支持的風土づくりは常に意識して指導していく。
	項目 指標	自主的・実践的な活動の活性化 学級活動(話し合い活動)や係活動などに進んで参加し、学級をよりよくしようと諸問題の解決に努めている。	授業研究 児童の様子 授業研究		
	項目 指標	異学年交流(たてわり班活動) ここに各班等の異年齢集団の中でふれあい協力を中であら、認め励まし合う仲間づくりができています。	児童の様子 教職員自己評価		
特別支援教育	項目 指標	一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実 児童個々の課題を明確にして一人一人の発達段階に応じた指導を行うよう努める。	教職員自己評価 指導記録簿	A	・ユニバーサルデザインや「合理的配慮」の研修を通して全教職員の児童理解の力が高まった。今年度は専門家による児童理解研修を年度当初の早い時期に実施した。来年度も継続して行っていきたい。 ・個別的教育指導計画、教育支援計画の定期的な見直しを確実にを行い、指導に生かす。校内委員会の定例化が課題である。
	項目 指標	校内支援体制の充実 カウンセリング研修・特別支援教育研修を持つことができています。	就学指導記録 教職員自己評価		
	項目 指標	適切な就学指導 教員の共通理解や関係機関との相談等、適切な就学指導に努める。	教職員自己評価 指導記録簿		
人権教育	項目 指標	仲間づくり 自他の命を大切にし思いやり助けあい支え合う共生の心を育ててきた。	児童の様子 アンケート	A	・人権課題に直結する授業を今後進めるように教材の選択を行う。 ・学校環境や授業のユニバーサルデザイン化をテーマに、学級づくり・授業づくりを中心として人権教育を推進している。教師と児童、児童相互のコミュニケーションを一層深め、誉めることを通して自己有用感を育む学級経営を進める。
	項目 指標	人権尊重の環境整備 言語環境や教室環境、校内掲示を含め、人権環境を大切に、人権尊重の精神に立った教育環境を整備した。	教職員自己評価 点検記録簿		
	項目 指標	自尊感情を育てる 日々の教育活動やふれあいの中で、自分に自信をもち、主体的に行動できる児童の育成をめざした取組を推進する。	児童の様子 教職員自己評価 アンケート		

◎	◎	・今後も定期的な点検を行うとともに、各自の点検場所だけでなく、児童の休憩時間や放課後などを利用して、普段、目の届かない場所も気配りをして、点検もしてほしい。
◎	○	・授業参観では、隣同士、グループ同士などで助け合ったり、教え合ったりするなど心が温まる様子が見られた。また、高学年では自分の意見・考えを持たせ主張する指導がなされているように見て取れ、児童が伸びやかで活発に学習していた。更なる創意工夫、充実に努めて頂きたい。授業や音楽会等での児童の元気で活発な様子に元気をもらう。 ・保護者アンケートの結果から、少人数授業や同室複数指導などのきめ細かな指導や、朝読書や赤穂ドリルの活用などにより、基礎・基本の定着に効果を上げているのがよく分かる。一方、保護者が先生方の努力を認めながらもさらにすべての児童に「分かる授業」を期待していることも分かるので、家庭学習の習慣作りと関連させるながら充実させてほしい。
◎	◎	・全教育活動の中で、自分と友達を大切に、みんなで力を合わせて楽しい学校づくりを目指していることが、学校行事やオープンスクールなどの子ども達の様子を見ているとよくわかる。 ・道徳の時間も確保され、先生方の授業力も研修を行うことで向上が図られている。今後は、家庭との連携をこれまで以上に工夫してほしい。
○	○	・3年生を中心としたアマモの学習や地域の方々との交流を通じた体験学習などは、御崎小学校の地域性を生かした取組なので今後も継続し、充実させてほしい。 ・全学年で様々な福祉体験活動を行っていることは、大切であり、続けてほしい。
◎	◎	・昔に比べ、異年齢集団の自然的な交流が少なくなっている中で、異年齢交流活動に熱心に取り組まれていることが、学校行事などの紹介などでも伺われる。オープンスクールなどで児童は、明るく仲よく楽しく過ごしている様に感じるのは、この取組の成果でもあると思う。 ・今後もいじめ問題などが起こらないように、児童の人間関係を良好に保ち、見守っていくことが大切だ。
◎	◎	・一人一人の児童が自立できるように、あたたかい雰囲気大切にしつつ、全校で特別支援学級を支援し、取組を一層進めてもらいたい。 ・より一層一人一人の児童理解を進めるために、今後も指導計画や支援計画の見直しや引継ぎを確実に行ってほしい。 ・児童理解を深めるためにも、職員研修を継続的に行ってほしい。
◎	◎	・アンケート結果から、児童が仲よく過ごしていることが分かる。児童の心身の成長に向き合い、一人一人が自分の意志を伝えられる様に一層取り組んでほしい。 ・困ったときに相談相手になれるように、一人一人の児童によく話しかけてやってほしい。今後とも児童が楽しい学校生活を送れるよう、細かい所まで注意して見守ってほしい。 ・家庭や地域との連携を深め、すべての大人が児童一人一人に温かい愛情を注ぎたい。

自己評価における特記事項

・学校自己評価は、A = 4 B = 3 C = 2 D = 1として数値化し、その平均値によって達成状況を表した。  
A : 3. 2以上 B : 2. 8以上3. 2未満 C : 2. 4以上2. 8未満 D : 2. 4未満

項目以外の点での来年度の課題や具体的改善方法

- ・児童・保護者アンケートにおいてCやDに評価をつけた児童・保護者の思いを丁寧に取り、その思いを原点として教育実践の深化を図る。
- ・本年度から赤穂市教育振興基本計画(赤穂教育プラン)が新プランとなった。「夢を育む教育」をめざして、その成果と課題を明らかにし、新たな課題に向けて実践化に励む。